

筑前町における地域公共交通の利用促進に関する研究

福岡大学工学部 学生会員 ○ 奥田 健翔 福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩
 福岡大学工学部 正会員 吉城 秀治 福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

1. はじめに

近年、我が国では高齢者の割合が急速に増加しており、高齢者も安心して利用できる交通システムの確保が求められている。しかしながら、不採算路線の廃止等で交通の空白地域が発生しており、それを改善するために自治体によるコミュニティバスやデマンド交通などが運行されている。それらの運行にあたっては住民の意向調査に基づいて導入するケースも多い。しかしながら、利用者数は当初の想定を大きく下回ることが多いのが実状である。その理由として、高齢者であっても家族や他人の車に同乗して移動するケースが考えられ、必ずしも移動に困っているとは限らないと推察できる。

そこで、本研究では、筑前町の「ちくちゃんバス」をケーススタディとして、利用者の中でも高頻度利用者にみられる特徴を分析し、バス利用者の増加を図るための利用促進策について検討する。

2. 地域巡回バスおよび調査の概要

筑前町の人口は平成 27 年 11 月現在 29,626 人であり、地域巡回バスが町内を 8 コース(1 日 3 便/コース)運行している。運賃は無料で、だれでも乗車することが可能である。なお、平成 27 年 10 月における 1 日平均利用者数は 71.5 人である。

まず、地域巡回バスとの連携可能性のある町内イベントの抽出のため、2015 年 6 月下旬～7 月上旬にイベントに関する調査を行った。この調査は筑前町役場の 12 部局に対して行い、計 89 のイベントが得られた。そのアンケート項目は、名称、開催日、開催時間帯、開催場所、参加者数、参加年齢層、次年度の開催予定、イベント概要、イベント参加者にバス利用を促すアイデアである。イベント内容を①開催時間、②開催場所、③高齢者の参加、④開催の定期的性の 4 指標で整理し、それらの総合評価にて地域巡回バスとの連携可能性を評価し、表 1 に示すように 6 つのイベントを抽出した。

表 1 地域巡回バスと連携可能性のあるイベントの概要

イベント名	回数/年	参加人数/回	イベント内容
新生学級	10	100	講話・レクリエーション・勉強会
しあわせ学級	10	100	講話・レクリエーション・勉強会
公民館主催講座	42	15	和綴り講座やエクササイズなど
みなみの里イベント	5	5,000	夏祭りや収穫祭など
筑前町マンスリーコンサート	8	150～460	多種多様なコンサート
平成 27 年度下水道展	1	1,000	パネル展示・ビデオ上映・下水処理施設見学・金魚すくいなど

次に、2015 年 8 月と 9 月に利用者アンケートと老人組合へのアンケートを行い、それぞれ 43 部と 49 部、合計 92 部が得られた。アンケート項目は地域巡回バスの利用状況、日常生活での行動、抽出した 6 つの町内イベントへの参加の有無、平成 27 年 4 月からの運行改正への意見、個人属性である。

地域巡回バスを利用したことのある 51 人について、個人属性を図 1 に示す。性別では女性が 80%を占め、年齢層では 65 歳以上の高齢者が 84%を占める。

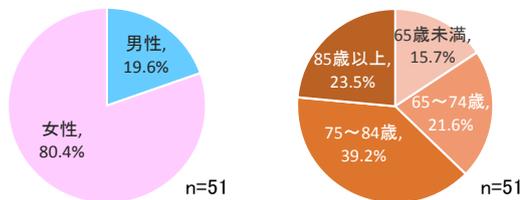


図 1 地域巡回バス利用者の個人属性

3. 筑前町住人の行動実態

3-1. 地域巡回バスの利用実態

地域巡回バスの利用状況を図 2 に示す。「週 1 回以上利用している」が 39%、「利用したことがない」が 42%となった。

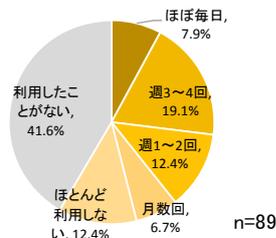


図 2 地域巡回バスの利用頻度

3-2. 地域巡回バス利用者の行動特性

地域巡回バス利用者の買物、病院、娯楽の日常行動における外出頻度と、その際の交通手段の結果を表 2 と表 3 に示す。

その結果、それぞれの日常行動において地域巡回バスを利用している割合は、買物で 71%、病院で 34%、娯楽で 79%となった。

表 2 地域巡回バス利用者の日常生活における外出頻度

行動	頻度	ほぼ毎日	週 3-4 回	週 1-2 回	月数回	殆ど行かない	合計
買物(n=46)		10.9	28.3	45.7	13.0	2.2	100.0
病院(n=25)		0.0	20.0	20.0	56.0	4.0	100.0
娯楽(n=25)		12.0	32.0	28.0	28.0	0.0	100.0

単位:パーセント

表 3 地域巡回バス利用者の日常行動の際の交通手段

行動手段	自分で運転	家族に同乗	他人に同乗	電車	路線バス
買物(n=48)	14.6	8.3	2.1	0.0	2.1
病院(n=23)	17.4	4.3	0.0	8.7	21.7
娯楽(n=24)	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2

	地域巡回バス	片道地域巡回バス	自転車	その他	合計
	66.7	4.2	2.1	0.0	100.0
	30.4	4.3	4.3	8.7	100.0
	75.0	4.2	4.2	8.3	100.0

単位：パーセント

4. 地域巡回バス高頻度利用者の特徴分析

4-1. 個人属性、外出項目による特徴分析

本研究では地域巡回バスの高頻度利用者を把握するため、地域巡回バスを「ほぼ毎日」あるいは「週 3~4 回」の利用と回答したサンプルを「高頻度利用者」とし、「週に1~2回」もしくは「月数回」と回答したサンプルを「低頻度利用者」と定義した。

高頻度利用者と低頻度利用者の年齢を表 4、買物と娯楽に関する外出頻度を図 3 に示す。

表 4 高頻度利用者と低頻度利用者の年齢層

利用者	年齢層	65歳未満	65-74歳	75-84歳	85歳以上	合計
高頻度利用者(n=24)		12.5	16.7	33.3	37.5	100.0
低頻度利用者(n=17)		17.6	23.5	41.2	17.6	100.0

単位：パーセント

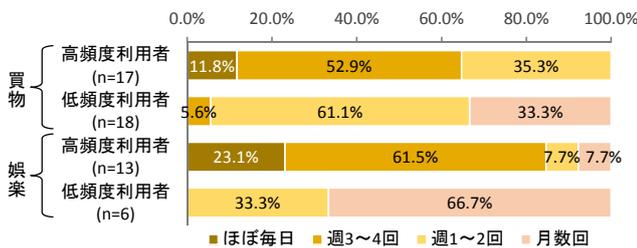


図 3 高頻度利用者と低頻度利用者の外出頻度

表 3 より、高頻度利用者では 85 歳以上が 37.5%、低頻度利用者では 75~84 歳が 41.2%と最も高い割合となっている。また、図 3 より、買物、娯楽ともに、高頻度利用者の方が低頻度利用者に比べ外出頻度が高いことがわかる。このことから、低頻度利用者に地域巡回バスを利用してもらうためには、買物や娯楽での外出機会を増やす取り組みが必要であると考えられる。

4-2. おしゃべり、バスへの満足度による特徴分析

地域巡回バスへの満足度とおしゃべりの頻度の関係を図 4 に、各頻度利用者との関係を図 5 に示す。おしゃべりをよくする回答者のうち、約 8 割が地域巡回バスの利用に対して満足していることが示され、楽しいと回答したうちの約 9 割が地域巡回バスの利用に対して満足していることが示されている。図 5 より、地域巡回バスの満足度が高い回答者ほど利用頻度が高い傾向にあることが示されており、満足度と利用頻度の関係が示されている。このことから、地

域巡回バスの満足度を高めることが必要であるといえる。

これら結果は、バス車内でのおしゃべりといった他の利用者とのコミュニケーションが満足度を高め、さらには利用頻度の向上に繋がってくることを示したものと考えられる。

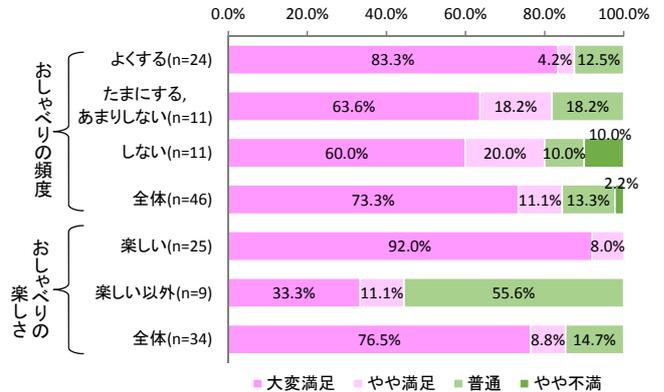


図 4 おしゃべりと地域巡回バスへの満足度

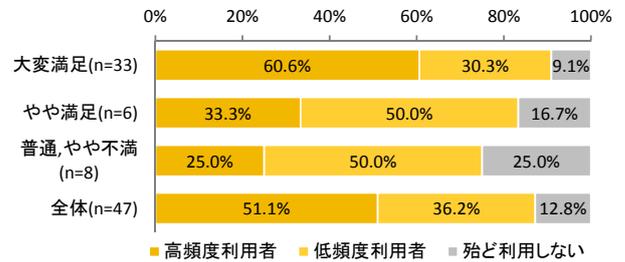


図 5 地域巡回バスの満足度と利用頻度

5. まとめ

本研究では、アンケートから地域巡回バスの高頻度利用者の特徴を明らかにし、利用促進策のヒントを得ることを目的とした。高頻度利用者と低頻度利用者による主な外出先に関する違いは見られず、外出頻度が影響していることがわかった。低頻度利用者の外出を促すために、買物や娯楽での外出機会を増やす取り組みが必要であると考えられる。低頻度利用者において最も多く占めていた 75~84 歳をターゲットにしたイベントの開催やイベントへの参加の呼びかけが効果的と考えられる。

おしゃべりと地域巡回バスへの満足度に関しては、地域巡回バス車内でのおしゃべりによる他の利用者とのコミュニケーションが満足度を高め、さらには利用頻度の向上に繋がってくるということが明らかになった。このことから、地域巡回バスが地域住民同士のコミュニケーションの場となり得ることの PR が効果的であると考えられる。

今後の課題としては、上記で述べた利用促進策を実施し、その後のデータの収集、分析を行い、利用促進策の有意性の有無を調べ、利用促進策の妥当性について検証する必要がある。

参考文献

- 1) 辰巳浩・堤香代子・吉城秀治・鶴丸梓: 地域公共交通の利用者特性に関する研究—筑前町を対象に、第 35 回交通工学研究発表会論文集, pp.531-536, 2015.